

広島大学

# 日本語教育研究

第 26 号

広島大学大学院教育学研究科  
日本語教育学講座

2016

# 「広島大学日本語教育研究」投稿規定

## 1. 刊行の目的

広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座所属の教員等の研究成果の発表に資する。

## 2. 名 称

『広島大学日本語教育研究』〈英文名：Bulletin of the Department of Teaching Japanese as a Second Language, Hiroshima University〉とする。

## 3. 投稿資格・投稿内容等

- (1) 投稿資格を持つ者は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座の教員（非常勤を含む）、大学院生、大学院修了生、前年度まで在職の教員等とする。現専任教員との共著に限り、学部卒業生・学部生・研究生・研修生、及び講座の承認を得た者も投稿できる。
- (2) 投稿できるのは、研究論文・研究報告・実践記録・講演原稿・資料等とする。
- (3) 講座彙報・書評等を掲載する。ただし書評については、投稿があった場合は書評の欄を設けて掲載する。投稿がない場合には欄を設けない。
- (4) 投稿できる論文数は、2編（個人研究1編・共同研究1編、または共同研究2編）までとする。なお、書評はその数に含めない。

## 4. 編集等

- (1) 講座内に紀要編集委員を置き、2名の編集委員で構成する。
- (2) 本紀要は年1回刊行する。
- (3) 執筆者校正は2校までとし、本人の責任校正とする。

## 5. 原稿執筆要領

- (1) 個人研究・共同研究ともに、400字詰め原稿用紙40枚以内とする。ワープロを使用する場合は、横書きは23字×45行×2段、縦書きは34字×31行×2段をそれぞれ1頁として、8頁以内とする。図表等もこの制限内に収めること。
- (2) 原稿は完全原稿とする。1頁目のはじめに論文題目、執筆者名、英文題目、執筆者名（ローマ字）を段組をせずに記すこと。必要に応じてキーワード5語以内を付すことができる。注及び引用文献は論文末に一括して掲げること。
- (3) 11月30日の最終原稿提出時に、250語以内の英文要旨を提出すること。
- (4) 教員の投稿締切は毎年11月30日とし、紀要編集委員に午後5時迄に提出する。大学院生、大学院修了生のみで執筆する場合は審査を行うため10月31日（午後5時）を投稿締切とし、最終稿は11月30日（午後5時）を締切とする。ただし、締切が土曜日または日曜日の場合、その直前の金曜日を締切に替える。締切厳守のこと。
- (5) 提出原稿は返却しない。大学院生、大学院修了生のみで執筆する場合はハードコピー（プリントアウトした原稿）を3部提出すること。
- (6) 原稿提出の際には、ハードコピー（プリントアウトした原稿）を講座事務室宛に提出するとともに、添付ファイルで nihongo@hiroshima-u.ac.jp の講座アドレス宛に送付すること。
- (7) 原稿提出は、ワードまたは一太郎ファイル、及びPDF変換したもの、各1部を提出すること。件名には「講座紀要応募原稿」と氏名を明記すること。
- (8) ハードコピー（プリントアウトした原稿）と添付ファイルの両方が、締切期限までに提出されたものについて応募を認めることとする。

## 6. 大学院生の投稿の審査等

- (1) 大学院生のみで執筆の場合は主任指導教員が主査となり、2名の副査と審査を行った後、講座の了承を得るものとする。
- (2) 教員と共著の場合は、当該教員の責任において採否を決定する。

## 7. 大学院修了生の投稿規定

本講座の大学院博士課程前期・後期課程を修了した者の投稿を以下の条件において認める。

- (1) 元指導教員または近接関連領域の教員（関連分野の教員がいない場合は外部に審査員を依頼）が主査となり、2名の副査と審査を行なった後、講座の了承を得るものとする。
- (2) 各号あたりの修了生の論文掲載枠を3編までとし、投稿が多数の場合は、編集委員と審査員で協議し、上位3編を選び、掲載を認める。
- (3) 投稿手続き及び締切等については大学院生の投稿規定に準じる。
- (4) 教員との共著の場合は、当該教員の責任において採否を決定する。

## 8. 著作権

- (1) 『広島大学日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座に属する。
- (2) 著作者が自らの著作物を利用する時は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座として何ら制限しない。
- (3) 広島大学全学の方針に基づき、平成24年度以降、本誌の内容を広島大学学術情報リポジトリに登録することとする。（登録を希望しない場合は投稿時に申し出ること。）

※平成10年11月4日、平成13年7月5日、平成14年10月24日、平成22年7月22日、平成25年4月10日、平成27年3月4日一部改正

# 目 次

## 論文：

大学のグローバル化が日本語教育プログラムと教員の立ち位置に及ぼす影響 ..... 倉 地 暁 美.....	1
日中両言語における人名詞の解釈に関する研究 — 指示詞の省略可能性の観点から — ..... 陳 嫻 如.....	9
映画『一枚のハガキ』の分析 — 場の象徴と凝縮されたセリフ — ..... 柳 澤 浩 哉.....	17
DLA〈話す〉における接続助詞の使用実態 — 学年間の比較 — ..... 永 田 良 太・朱 桂 榮.....	23
中国語を母語とする中級日本語学習者の中国語単語の口頭翻訳課題における処理過程 — 聴覚呈示事態における中日間の形態・音韻類似性の影響 — ..... 松 見 法 男・費 曉 東・朱 桂 榮.....	29
中国語を母語とする日本語学習者の文章聴解に及ぼすメモ行為と作動記憶容量の効果 ..... 徐 暢・費 曉 東・松 見 法 男.....	35
いわゆる〈発見〉の「タ」に関わる考察 — 「スル」形と「シタ」形の使用に着目して — ..... 帖 佐 幸 樹・白 川 博 之.....	41
武田麟太郎とサヌシ・パネ — 「東洋」文化の幻想 — ..... シャルル マルタ ドゥイスシロ.....	56 (1)
英文要旨.....	57

## 彙報：

平成27年度広島大学日本語教育学会発表要旨.....	61
講座歳時記.....	63
講座教員名簿.....	64
2015年度（平成27年度）論文題目一覧.....	65
執筆者紹介.....	68
編集後記.....	69

# CONTENTS

## Articles:

Globalization of Universities and its Influence on Japanese-language Education Programs and Full-time Instructors in Japan .....	Akemi KURACHI 1
Interpretation of Personal Nouns in Japanese and Chinese: Possibility of Omitting Demonstrative Adjectives .....	Yen-Ju CHEN 9
Some Characteristics of <i>Ichimai no Hagaki</i> : a Work of Refined Lines and Symbolism of a Place .....	Hiroya YANAGISAWA 17
Analysis of Japanese Conjunctive Particles in Tasks Related to Dialogic Language Assessment with Emphasis on Student Developmental Stage .....	Ryota NAGATA, Guirong ZHU 23
Processing of Oral Translation from Chinese Kanji Words to Japanese Words among Intermediate Chinese Learners of Japanese: Effect of Orthographic and Phonological Similarities between Chinese and Japanese on Auditory Identification .....	Norio MATSUMI, Xiao-dong FEI, Gui-rong ZHU 29
Effects of Note Taking and Working Memory Span on Listening Comprehension of Japanese Sentences among Chinese Students Learning Japanese .....	Chang XU, Xiao-dong FEI, Norio MATSUMI 35
<i>Ta</i> as an Expression of the Relationship between Speaker and Events in Japanese .....	Hideki CHOSA, Hiroyuki SHIRAKAWA 41
Rintaro Takeda and Sanusi Pane: Imagined Oriental Culture .....	Syahrur Marta Dwisusilo 56(1)
Abstracts .....	57

## Collection of Reports:

Summaries of Presentation at the Meeting of Hiroshima University	
Teaching Japanese as a Second Language Association 2015 .....	61
Events .....	63
Academic and Administrative Staff .....	64
List of Ph. D. Dissertations / Master's Theses / Graduation theses .....	65
Authors .....	68
The Editor's Postscript .....	69

## 第26号 紀要編集委員会

永田 良太・陳 嬾如

### 編集後記

『広島大学日本語教育研究』第26号をお届けします。本号には8編の論文が掲載されています。いずれの論文も、これからの日本語教育の充実・発展に寄与しようとする問題意識のもとに書かれたものです。

近年、「グローバル化」が社会のキーワードになっていますが、グローバル化社会において重要なことは、自らの言語や文化を認識し、他者を尊重しながら、それを伝えていこうとする態度ではないかと思います。そして、それは私たち日本語教育に携わる者がこれまで行ってきたことであると言えるでしょう。

投稿規定にも記されているとおり、本誌には博士課程前期・後期の修了生も投稿することができます。修了生のみなさんがそれぞれの場所で抱かれた問題意識についての論考を、本誌を通して発表していただけることを期待しています。社会の激しい変化に対応するためにも、自らの足元をしっかりと見つめ直し、講座の教員、在学学生、修了生が一丸となって、これからの日本語教育やグローバル化社会に貢献していきたいと思います。

最後になりましたが、この1年も多くの大学、機関、学会等より本講座宛に紀要や機関誌・学会誌等の研究資料をご寄贈いただきました。大切に保管し、教育・研究活動に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

(文責：永田)

平成28年 3 月25日 印刷

平成28年 3 月25日 発行

**広島大学日本語教育研究 第26号**  
**Bulletin of the Department of**  
**Teaching Japanese as a Second Language,**  
**Hiroshima University**

**No. 26**

編 集 広島大学大学院教育学研究科  
日本語教育学講座紀要編集委員会

発 行 所 広島大学大学院教育学研究科  
日 本 語 教 育 学 講 座

〒739-8524 東広島市鏡山 1 丁目 1 番 1 号

Tel. (082) 424-6880

Fax. (082) 424-5245

印 刷 所 株式会社ニシキプリント

〒733-0833 広島市西区商工センター 7 丁目5番33号

Tel. (082) 277-6954

Fax. (082) 278-6954



Bulletin  
of  
the Department of Teaching Japanese  
as a Second Language,  
Hiroshima University

(Hiroshima Daigaku Nihongo Kyôiku Kenkyû)

No. 26

2016

Department of Teaching Japanese as a Second Language  
Graduate School of Education, Hiroshima University